開倫塾ニュース2016年1月号巻頭言	2015年11月17日

これからの社会で身に着けておいたほうがよい能力とは何かを考える

開倫塾
塾長 林　明夫

Q：これからの社会は、どのような社会ですか。そのために身に着けておいたほうがよい能力は何ですか。

A：(林明夫。以下省略)

(1)これからの社会は、知識が基盤となった「知識基盤社会」です。そこで求められるのは「知識・情報・技術を用いる能力」です。学校で学ぶ知識、インターネットなどで得られる情報、自分の専門領域の技術をうまく組み合わせて用いる能力です。

(2)これからの社会は、人やもの、サービス、お金が国境を越えて行き交う「グローバル化社会」です。そこで求められるのは「多様な集団で交流する能力」です。国籍、民族、言語、考え方、生活様式、価値観の異なる人々とうまくやる能力です。

(3)これからの社会は、先進諸国では少子高齢化、開発途上国では人口爆発、双方に共通したものとして都市化や温暖化などの様々な課題が山のように積み上がった「課題山積(さんせき)社会」です。そこで求められるのは「自律的に活動する能力」です。社会の課題の解決のために、高い志(こころざし)を持って自分の行動をたえず振り返り、「自省」しながら志を貫き通す能力です。

Q：どのようにしたら、それらの能力を持つことができますか。

A：(1)読書により思慮深さを身に着けることが第1です。新聞を読んで自分で考える力、批判的思考(クリティカル・シンキング)能力を身に着けることも大切です。

(2)学び方を学ぶ力を身に着けることが第2です。学力とは主体的に学ぶ力を意味します。今しなければならないこと、学ばなければならないことは何かを十分に「自覚」した上で、自分から進んで学び方を工夫することが大切です。

Q：具体的にはどのようなことに気をつけたらよいのですか。

A：(1)今行っていることや一つ一つのものごとの「意味」とは何か。「大切さ」つまり「価値」とは何か。それを成し遂げるために何をして、何をしないかという自分なりの「ルール」「決まり」を自分の力で考え、自分なりの「秩序」に基づいて行動することが大切です。自分にとって、また、社会にとって大切にすべき「意味」「価値」「秩序」とは何かを、自分の力で少しずつお考えください。

（２）相手の話には、相手の目を見ながら最後まで耳を傾けること、「傾聴」も大切です。

（３）自分の考えはよく考えた上で、できればメモにまとめ、相手の目を見ながら、自分のことばでできるだけわかりやすく伝えることも大切です。

（４）イギリスの首相であったブレア氏は、どのように短いスピーチや発言でも必ず自分の考えをメモにまとめ、発言までの短時間にそのメモを何回も見直して何も見ずに話をしたと、参議院議員の猪口邦子先生からお聞きしたことがあります。

（５）外国の大学や大学院に留学してよく学んで帰国した人の多くは、相手の目を見て最後まで相手の話に耳を傾け、自分の考えは相手の目を見てわかりやすいことばで伝えます。

Ｑ：「本を読み、新聞を読む」ですか。何だか難しそうですね。

Ａ：一番簡単に本や新聞に親しむ方法は、学校の図書室や市や町、県の図書館に行くことを自分の生活の一部にすることです。１日に１回は学校の図書室に行って時間を過ごすこと、１週間に何回かは市や町、県の図書館に行って時間を過ごすことを自分の生活の一部にしてください。

開倫塾の塾生の皆様の多くは、高校を卒業後、または、一度仕事に就いてから、大学や短期大学、専門学校、専修学校、大学院などに進学なさいます。また、それらを卒業後も必要に応じて一生を通して学び続けます。そのときに一番役に立つのが、大学や街の図書館です。

そのときの準備だと思って、小・中・高生のときに学校や近くの図書館を活用してみてくださいね。

楽しいクリスマスと年末、素晴らしい新年をお迎えになりますようにお祈りします。今年もよろしくお願いいたします。

―2015年11月17日記―

（宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授）